

令和7年度 北海道天塩高等学校 学校関係者評価

5つの項目それぞれに意見感想等をご記入ください。また、自己評価及び改善の方策の適切さについて記号(A:適切である B:概ね適切である C:やや不適切である D:不適切である)をご記入ください。

※資料中の数値・記号の意味について

評価項目 4: そう思う(十分である) 3: ややそう思う(概ね十分である) 2: あまりそう思わない(やや不十分である) 1: 思わない(不十分である)
達成状況 A: 十分達成できた(3.26以上) B: 概ね達成できた(2.51以上) C: やや不十分である(1.76以上) D: 不十分である(1.0以上)

項目	評価項目	生徒	保護者	教員	達成状況	改善に向けた取組	自己評価の適切さ	改善の方策の適切さ
学習指導	1 主体的な学び、対話的で深い学びを意識した授業改善をおこなったか。	3.4	3.2	3.1	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間を活用して各教科の取り組みを見学し、また各教科に向けてアンケート調査を実施するなどして、生徒の学習支援体制の充実を図る。 ・ICTの活用やgoogle Classroomの活用は進んでおり、課題配信もしているが、家庭学習の習慣化や授業を大切にする姿勢の醸成までは至っていないので、一層の活用を促していく。 ・探究活動については、全校体制での取り組みが高く評価されている。学校の魅力化推進の観点からも、継続して力を入れていくべきポイントである。 ・カリキュラムマネジメントや観点別評価については、職員全体で取り組む機会が少なく、次年度へ向けて重点的に取り組む必要がある。 	A	A
	2 生徒の学習状況調査の定期的な実施と支援体制の確立をおこなったか。	3.4	3.2	3.2	B			
	3 学びなおしから大学進学までT-basesやスタディサプリ等を活用した個別最適な学びの推進をおこなったか。	3.4	3.3	3.1	B			
	4 探究活動を指導するための全校体制の強化をおこなったか。	3.5	3.4	3.2	A			
	5 校内研修(カリキュラムマネジメント等)の充実ができたか。	3.4	3.3	2.7	B			
	6 観点別学習評価実施に伴う課題の検証と改善をおこなったか。	3.4	3.1	2.6	B			
意見感想等 ・学校の取組を全員が当事者として取り組む必要があると考える。 ・様々な取り組みを活発におこなっており、大変良いことだと感じます。「改善に向けた取組」に改善点・反省が示されている点に伸びしろを感じました。 ・探究活動と中学校の総合的な学習の時間で、「地域の活性化」という部分で連携を図りたい。発表会への参加の仕方など、検討しながら今後も継続できれば、と思います。 ・地域のお祭りでも、天塩高校生が活発に活動している姿が見られました。								
生徒指導	7 挨拶・礼儀作法等を習慣化するための指導と実践をおこなえたか。	3.4	3.1	2.8	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様、学校行事や探究活動などで地域住民や外部人材と協働し、生徒たちに主体的・協働的に取り組む力やよりよい社会や人生を切り拓く力を身につけさせる。 ・部活動の地域開放を進めるために、地域から情報を集めて人材確保を進める。 ・講演や防災活動など、保護者参加可能なイベントについて積極的に参加を呼び掛けたり、スクールカウンセラーの活用や特別支援体制への理解を深める情報提供等の質を向上させたりする。 	A	A
	8 SNS利用におけるマナーやルール遵守の指導と、生活リズムを確立させる指導を充実させたか。	3.4	3.1	2.7	B			
	9 学校行事等をおとした集団づくりの推進とコミュニケーション力の向上に取り組めたか。	3.5	3.3	3.4	A			
	10 地域と連携した部活動の取組の推進ができたか。	3.4	2.8	2.7	B			
	11 教育相談の充実と職員全体での情報共有による、いじめ等の未然防止はできたか。	3.4	3.1	3.3	B			
	12 生徒会やボランティア活動など、生徒の主体的な取組を推進できたか。	3.5	3.4	3.3	A			
	13 委員会活動の活発化と薬物乱用防止、性教育、交通安全、防犯等の各教室や講話等での指導の充実ができたか。	3.6	3.3	3.5	A			
	14 防災指導の充実と救命知識の向上を図れたか。	3.6	3.3	3.6	A			
	15 スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーと連携した、個々の生徒への迅速かつ適切な対応ができたか。	3.4	3.1	3.5	A			
16 特別な支援が必要な生徒の指導計画の作成と関係機関との連携はできたか。	3.5	3.1	3.5	A				
意見感想等 ・地域住民に高校の存在感を示すため、引き続き地域との関わる行事を取り組んでいただきたい。 ・生徒と指導者の評価に差が出ている項目(赤)のギャップを埋めたいところです。7と8は「時代の違い」や「こうあってほしい」側と「そこまでされたくない」側の違いが出て当然だと思いますが、中学校や家庭とも連携して取り組む重要項目だと感じます。10の部活に関しては、当時を知る大人と、現在のみの生徒では差がでて当然ですね。地域が重い腰を上げていかなければ、改善できない項目です。								
進路指導	17 キャリア教育の視点を踏まえた、進路シラバスの効果的な活用ができたか。	3.5	3.1	2.9	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路選択に対応できるように、教育課程や単元配列表と連動した3年間を見通したキャリア教育計画の見直しを図る。 ・町の助成が打ち切られたことで検定受験者数が大幅に減少したが、進路選択における検定取得の重要性を訴えることで検定に挑戦する意欲を高める。 ・大学進学に関わる指導においては、引き続き放課後や長期休業中の講習を充実させるとともに、多様な受験方法に関する知識や道外を含めた大学の情報など、生徒たちの進路選択の幅を広げるための情報提供に力を入れる。 ・外部人材の活用については、地域から情報を集めたうえで、効果的な講話等の実施を継続していく。 	A	A
	18 「教科・科目選択」指導の充実と、学年・教科の情報共有はできたか。	3.5	3.1	3.1	B			
	19 生徒の日常の学習状況および模試等の分析、課題の共有化を行えたか。	3.6	3.2	3.4	A			
	20 T-baseの活用および公設民営塾等との連携、各種検定や模試等への取組を推進したか。	3.6	3.1	3.5	A			
	21 進路説明会・オープンキャンパスへの参加を促進したか。	3.5	3.4	3.4	A			
	22 職場見学等による職業観の醸成ができたか。	3.5	3.1	3.0	B			
	23 総合的な探究の時間を活用した計画的な進路への取組を推進したか。	3.4	3.3	3.3	A			
	24 保護者進路説明会や、面談等を活用した指導を充実させたか。	3.5	3.2	3.3	A			
	25 外部講師や社会人講話など、地域の人材を活用した取組を推進したか。	3.5	3.4	3.5	A			
26 キャリア・パスポートの活用などによる、系統的・組織的指導を充実させたか。	3.5	3.0	2.4	B				
意見感想等 ・助成がないから受験しなかったのではなく、生徒本人が必要だから受験する流れを作るべきと考える。 ・助成したことに対する成果が見えず、必要性が見えなかったのではないかと。 ・T-baseの活用や公設民営塾との連携など、中学校のPTA総会前に紹介していただきましたが、今後も多様な形で高校と連携を図りたいと考えます。								

信 類 さ れ る 学 校 づ く り	27	生徒・保護者、地域への学校教育目標等の周知はできたか。	3.4	3.1	3.1	B	・中学生向けのイベントについては、参加者体験型の内容の充実を図り、本校の教育活動を強く印象付けるための工夫を継続する。 ・情報発信については、即時性のあるInstagramで写真や動画を交えて本校の取り組みをリアルに発信し、学校公式HPでは公式情報を伝達などの用途に分けて情報を更新することで本校の魅力を伝える手段として活用する。 ・総合的な探究の時間を核とした地域に求められる人材育成のために、外部との連携を強化しつつ、教育活動の内容を検証・分析した上で精査していく。	A 3.9	A 3.9	
	28	学校教育目標等に根ざした教育活動の計画と実施はできたか。	3.5	3.2	3.2	B				
	29	中学生・保護者・地域等を対象とした授業公開・学校紹介等の取組を実施し、その検証と改善を図ったか。	3.5	3.1	3.2	A				
	30	HPや各種通信・報道機関等を活用した積極的な情報提供と日常的な情報交換はできたか。	3.4	3.2	3.1	B				
	31	地域に必要とされる人材育成の観点からの教育課程と教育活動の、点検と改善はできたか。	3.5	3.1	2.9	B				
	32	高大連携および小中学校との連携した取組の推進はできたか。	3.6	3.3	3.5	A				
<p>意見感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい取り組みに積極的に取り組んでいる様子がうかがえます。今後も絶やすことなく継続して欲しいと感じています。 ・学校説明会で授業等を体験させていただき、中学生にとっては天塩高校を知る大きな機会となりました。 										
組 織 運 営 ・ 教 職 員 の 資 質 向 上	33	目標達成に向けた責任ある業務遂行と、協働体制の構築はできたか。				3.2	B	・職員室の雰囲気や穏やかなものに保つことで、情報交換等の風通しを良くし、困った時にはお互いに助け合う協働体制を構築していく。 ・各業務について効果を検証した上で精査し、業務分担などを通じて組織化・効率化を図る。	A 3.7	A 3.4
	34	分掌を中心とした事前調整および学年との連携はできたか。				3.2	B			
	35	分掌・学年会議の定例化と記録の適切な管理はできたか。				3.3	A			
	36	校務の組織化・効率化による、多忙感の改善はできたか。				2.1	C			
	37	日頃から相互啓発できる職場環境の充実はされたか。				2.9	B			
	38	課題に即した研修計画の立案と自己研修の奨励は進んだか。				2.9	B			
	39	個別面談を通じた目標管理と教育公務員としての意識の醸成はできたか。				3.1	B			
	40	メンタルヘルスの理解促進と実践はできたか。				2.5	B			
<p>意見感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組を全員が当事者として取り組む必要があると考える。 ・評点が低く気になります。また低く評価してのわりには改善点に具体性が無いことは問題かと感じます。個々が尊重される時代となり、そのことを否定はしませんが、組織(プロ)である以上、時には個々を捨て、取組まなければ何ら達成できません。36については「働き方改革」を意識された回答かと思いますが、生産性や意識が低下するようでは、改革に当てはまらず 怠慢となりますので、そのことを再確認され、一丸となってより良い環境を構築していただきたいと思っております。 										

※自由記入欄

<p>・中学校と高校で教育方針(校則含め)の擦り合わせが必要かと感じています。天塩町のみならず、中学校では「多様性」という言葉が尊重され、服装・頭髪・態度 概ねなんでもよし!とされている様です。これは天塩高校が望むものとかけ離れている事態です。生徒は混乱するでしょう。社会風潮が絡む非常に難しい問題ですが、少なくとも天塩町内の学校として、町・小中高学校で十分協議して欲しいと願います。</p> <p>・全項目のうちCがついている「組織化」「効率化」については、先生方が日々多忙であるというのは現実にもそうなのでと地域の者からみても推測できます。この点については校内で解決が可能な部分以外に地域の者(外部)でも、協力・支援可能な部分があるのであれば、お知らせいただきたいと思っております。また、部活動の地域展開(先に中学生で本格的な移行期を迎えている)についても、大会・コンクール・コンテスト等のルールも変革期を迎えてきており、大会を主催する団体とも情報共有をはかりながら、生徒の頑張りが「発揮できる環境」と「続けていける場」を維持・構築していくためにも、多くの地域の力を求めていきたいと思います。</p> <p>・高校との連携について、特に総合的な学習の時間でのつながりなど可能な限り実施していきたいと考えています。</p> <p>・天塩高校の取組が新聞等で紹介されることが、今年度は特に多かったと思っております。学校の働き掛けが活発に行われた成果と思っております。</p> <p>・探究学習の発表会や学校祭など様々な活動で、天塩高生の活動を見させていただきました。子どもたちが主体的に動いていること、大学や地域などのつながりで学びを深めていること、先生方が子どもに寄り添って活動していることなどが活動の様子から伝わりました。1年間の活動大変お疲れさまでした。</p>
--